



DA 1651

# 2016年度 ロジスティクス大賞

## 応募のご案内

応募受付締切日

2016年

4月15日(金)

# ロジスティクス大賞の概要



## ロジスティクス大賞とは

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、ロジスティクス推進に向けて、顕著な努力と優れた実績をあげたと認められる企業、機関、団体を表彰する「ロジスティクス大賞」を設けております。

また、優れた実績、成果を顕彰し、ロジスティクスの社会的浸透と、ロジスティクス部門および関係者の意識高揚を図ることを目的としております。

## 応募のすすめ

企業活動におけるロジスティクスは、調達、生産、販売、輸配送、回収、再生にいたる過程を、部門や個別企業における部分最適を超えて企業間連携による全体最適を追求し、経営戦略的な視野に立った総合的なシステムの構築が不可欠になります。

各企業においては、ロジスティクスの高度化のために、ICTを活用した可視化によるサプライチェーンマネジメントの構築、企業活動のグローバル展開に伴うネットワークの整備、環境調和型ロジスティクスの構築と普及による循環型社会の実現など、様々な取り組みがなされております。

このようなロジスティクスの高度化への取り組みと、その優れた実績を広く社会に公表することは、新たな挑戦目標を生み出す刺激となり、当該企業のみならず、広く産業界の関係者にとって極めて有意義なことであります。

本年度で第33回を迎える「ロジスティクス大賞」へのご応募をお待ちしております。

## 応募要領

### 募集対象

日本国内に事業所を有する企業・機関・団体。

### ①応募 お申込み 締切日:4月15日(金)

- ・自薦、他薦は問いません。
- ・別紙申込書にご記入のうえ、4月15日(金)までに「会社案内」もしくは「事業案内」とともに事務局宛にご郵送ください。折り返し、「論文作成要領」をお送りいたします。
- ・他薦の場合は、当協会ホームページ (<http://www.logistics.or.jp/propulsion/list/prize.html>) より推薦書をダウンロードしてください。

※論文作成要領はホームページからもダウンロードできます。

※応募資料は返却いたしません。また、外部には一切公開いたしません。

当協会では、個人情報の保護に努めております。

詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<http://www.logistics.or.jp/privacy.html>) をご覧ください。

## スケジュール

~4/15	①応募 お申込み 申込書と会社案内をお送りいただきます。
~5/13	②論文の提出 論文執筆要領に従い、論文のご執筆・ご提出をいただきます。
6月 下旬	③ノミネート委員会の開催 必要に応じ、委員会の場にお越しいただき、ヒアリングを実施いたします。
7月 下旬	④選考委員会の開催 ロジスティクス大賞および特別賞が決定されます。
8月 下旬	⑤受賞企業の発表 審査結果は8月下旬までに応募企業へ通知いたします。
10月	⑥ロジスティクス全国大会2016にて表彰式・受賞記念講演 受賞企業にはロジスティクス全国大会にてご講演をお願いいたします。

## ②論文の提出 締切日:5月13日(金)

下記の要領にて、5月13日(金)までにアブストラクトと論文を事務局宛にご郵送ください。

### 1. アブストラクト

以下の項目につき、A4サイズ1枚程度に簡潔に記載してください。

- 取り組みを行うに至った背景と目的
- 取り組みの概要
- 取り組みによる成果

### 2. 論文

論文構成として、以下の内容を記載してください。

#### (1)目標設定と条件

取り組む前提状況(着眼点)および総合目標の設定。

#### (2)活動の展開・対策および組織体制

対策内容とそれに伴う活動及び組織体制の整備、革新的技術の応用度。

#### (3)実績(成果)と経営革新度

実績(定量的な成果)と経営革新への貢献度。

#### (4)社会的影響と貢献

他企業・事業所などへの応用、社会システムとしての汎用性。

※詳細は事務局よりお送りする「論文作成要領」をご確認ください。

## ③ノミネート委員会の開催

## ④選考委員会の開催

### 審査の方法

以下の評価基準に従って、ロジスティクス大賞ノミネート委員会ならびにロジスティクス大賞選考委員会にて論文審査が行われます。

※ノミネート委員会では、必要に応じ、委員会の場にお越しいただきヒアリングを実施いたします。

<b>創造性</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・着眼点の新しさ</li><li>・目標の革新性</li><li>・オリジナリティ(または独創性)</li></ul>	<b>技術革新度</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・マテハン技術</li><li>・情報技術等の革新的技術の応用度</li></ul>
<b>成果度</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・顧客満足度向上</li><li>・生産性向上</li><li>・差別化の実現等の定量的な成果度</li></ul>	<b>社会性</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・他企業や事業所などへの適用可能性(または応用可能性)</li><li>・社会システムとしての汎用性</li></ul>
<b>経営革新度</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営革新への貢献度</li></ul>	<b>努力度</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・持続的な注力度、努力度(内外の関係組織との間の調整等を含む)</li><li>・人材の能力向上度</li></ul>

## ⑤受賞企業の発表

審査結果は8月下旬までに応募企業へ通知いたします。

※受賞されなかった企業につきましては、選考委員からのコメントが送付されます。

## ⑥ロジスティクス全国大会2016にて表彰式・受賞記念講演

### 表彰

ロジスティクス大賞受賞企業には、賞楯と副賞として賞金を授与いたします。

※受賞企業は、当協会機関誌「ロジスティクスシステム」やホームページの他、専門雑誌および業界紙等で発表いたします。

※受賞企業には、ご講演、見学の受入れをお願いいたします。

### 表彰式

表彰式は10月に開催される「ロジスティクス全国大会2016」の席上にて執り行われます。

※受賞企業には、「ロジスティクス全国大会2016」にて、「受賞記念講演」として、取組みをご発表いただきます。

# 過去の受賞企業

※企業名は受賞当時



ロジスティクス大賞楯

## 2015年度

### ■ 2015年度ロジスティクス大賞

受賞企業：大塚倉庫株式会社

受賞テーマ：共通プラットフォームの進化 ～2回転送を実現してトラック不足を解消する仕組み～

受賞事由：夏型商品と冬型商品、重量品と軽量品を組み合わせる共通プラットフォーム戦略は、配送パートナー会社のトラックの積載率を高める仕組みであり、WIN-WINの関係性を強化する仕組みと信じていた。しかし、物量の増加に伴って午前と午後の納品量のアンバランスを増長し、トラックの回転率を著しく低下させる要因となっていた。この問題に対し、翌日の午前納品だった物量の一部を、当日の午後納品に変更する改善を行った。これにより、配送パートナー会社の収益改善に貢献するとともに、リードタイムの短縮による納品先の在庫削減、さらには入荷作業の分散化による人員の適正化も実現した。関係者全員にとってメリットのある取組みであり、トラック不足を解消する仕組みとして高く評価された。

### ■ 2015年度ロジスティクス大賞 業務改革賞

受賞企業：株式会社デンソー/株式会社デンソーロジテム/株式会社デンソーITソリューションズ

受賞テーマ：「輸送ネットワークの最適化」と「コンプライアンスを遵守した乗務員に優しい輸送」を両立させた次世代輸送マネジメントシステムの構築  
受賞事由：2008年のリマーンショックによる需要の大変動は、グループの物流ネットワーク機能を麻痺させ、モノが物流倉庫に溢れかえった。この時の教訓とトラック乗務員不足の深刻化に対応すべく、IT技術を活用した輸送ネットワークの最適化とコンプライアンスを遵守した乗務員にやさしい輸送を実現する「持続可能な輸送マネジメントシステム」を確立した。運行ダイヤのコスト最小化と乗務員の働きやすさの両立を図るべく、働きやすさを数値化し最適化を行う運行ダイヤ作成システムを開発、作成工数を9割削減、トラック積載率を7.7%も向上させた。そして、この計画に基づく運行のモニタリング、積載率向上委員会等による改善の実施といったPDCAサイクルをまわすマネジメントシステムが評価された。

### ■ 2015年度ロジスティクス大賞 奨励賞

受賞企業：リコーロジスティクス株式会社

受賞テーマ：通取物流センター再構築による、物流センターオペレーションの技術革新と、物流ネットワーク全体最適化の実現

受賞事由：受託した通取物流の拡大に伴って、物量及び取扱商品が増大し、当初稼働していた物流センターでは対応できずに、外部倉庫を含め8箇所の拠点での業務を余儀なくされていた。本取り組みでは、この問題に対して抜本的解決を図るために、「止めない物流」をコンセプトに大型物流センターを新設し、東日本大震災時にも1日も止めることなく業務を継続した。また、出荷の引き当てからピッキング作業指示を自動化、オリコンの自動組立や荷札の自動貼付等を行うマテハン設備を導入し、無人化を実現した。さらに、販売予測を活用した商品のロケーション設定や入庫から配送までの全工程をモニタリングし効率化を図るなど、受注から出荷まで最短15分で出荷できる物流センターを稼働させた点が評価された。

### ■ 2015年度ロジスティクス大賞 環境賞

受賞企業：ユニリーバ・ジャパン・サービス株式会社

受賞テーマ：環境負荷を低減する包括的ロジスティクスシステムの構築

受賞事由：2020年までに「環境負荷を減らし、社会に貢献しながら、ビジネスを2倍にする」という企業ビジョンの達成するために、「ユニリーバ・サステナブル・リビング・プラン」を掲げ、生産、保管、加工、輸送における活動において生み出される廃棄物についての埋め立てをゼロにする「ゼロ・ランドフィル」を推進している。このため経営陣から現場まで、全社のあらゆる場面で判断要素に積極的に「ゼロ・ランドフィル」を取り込むとともに、地域のボランティア活動や全社集会以での活動報告を通じて継続的に意識を高めている。そして、契約する廃棄業者や委託する3PL事業所において環境負荷低減に向けた取組を推進するために、アイデアを出し合い、検討を重ねる場を設けてきた点が評価された。

## 2014年度

### ■ 2014年度ロジスティクス大賞

受賞企業：一般社団法人医療機器・材料業界情報化協議会

受賞テーマ：医療機器の預託取引ビジネスの標準EDIによる業界連携の実現

受賞事由：医療機器取引の四分の一を占めている預託取引は、医療機関に高額なカテーテル等を在庫として預けて、使用された段階で売上計上される取引で、電話やFAXによる取引が多かった。本取り組みは、メーカー、ディーラー、医療機関の間における預託取引をEDIにより行えるように、医療機関毎に施設コードを割り当て、さらにディーラーの多くが中小企業であることから、既存の電話やFAXによる取引にも対応できるように配慮し、システム開発を行ったものである。これにより、預託在庫の数量及び有効期限を正確に把握でき、業務の効率化、迅速化、入力等の人的ミスの防止が図られている。患者の生命に関わる商品の管理精度の向上、増加する医療費の抑制への貢献が期待できることが評価された。

### ■ 2014年度ロジスティクス大賞 業務改革賞

受賞企業：丸二倉庫株式会社

受賞テーマ：一中小企業が生き残りをかけて—HIGHLY COMPETITIVE LOGISTICS-SYSTEM BY MARUNI'S STAFF R&D II 新「全社的常時スタッフ最適配置システム」の実現

受賞事由：物流現場において労働力人口の減少に伴う人材不足が深刻となっており、より一層の生産性の向上が必要となっている。本取り組みは、従業員の多能化による生産性の向上を大きく前進させるためのシステム開発を行ったもので、1000人を超えるパート従業員一人一人について詳細に業務の習熟度を見える化し、管理者が容易に進捗管理を行えるシステムを構築している。その特徴は、従業員の習熟度に応じて適切な次の職場への配置替えを行う仕組みを構築した点で、このために全ての業務が誰でも簡単に実施できるように工夫されている。さらにはこの習熟度のデータベースを活用し、一箇所の事業所だけでなく、全社において従業員の応援、支援が可能な人材の最適配置を可能とした点が評価された。

### ■ 2014年度ロジスティクス大賞 環境貢献賞

受賞企業：ダイセル物流株式会社

受賞テーマ：株式会社ダイセルのモーダルシフトへの貢献及び帰便コンテナの再利用率向上

受賞事由：工場の移設に伴う大幅な陸上輸送距離の増加に対して、環境問題となる二酸化炭素排出量の増大が問題となっていた。この問題に対して内航船輸送へのモーダルシフトを実施するため、荷役クレーンやシャシ等の港湾荷役設備を導入し、二酸化炭素排出量を7割も削減することに成功した。さらに、輸入コンテナを返却する際のムダな空コンテナ輸送を無くし、より多くの二酸化炭素排出量を削減するために、輸出時に再利用する仕組みを構築した。外航船会社、乙仲、内航船会社等が逐次、輸入コンテナの動静情報を管理システムに入力し、輸出への転用計画を立案可能とし、再利用率は約8割に達している。このような二酸化炭素排出量の削減に対する積極的な取り組みが評価された。

## 2013年度

### ■ 2013年度ロジスティクス大賞

受賞企業：T Gロジスティクス株式会社

受賞テーマ：自動車部品の納入物流における「ジャストインタイム」と「満載効率」の両立 一独自の物流方式による輸送効率と物流荷役効率の極限追求—

受賞事由：膨大な品目を分単位の正確さでかつ在庫を極力もたない荷主と顧客双方の生産体制における要求に応えるべく、改善努力を積み重ね、新たな発想に基づいた新物流拠点を実現した。ストック機能をメインとした既存拠点に新たにクロスドック機能の発想を取り入れたことで、「ジャストインタイム」と「満載効率」の両立に加え、拠点集約による構内スペースの大幅な有効活用や品質の向上、さらに効率的な人員配置体制の実現といった成果を生みだし、荷主と顧客との連携によるムリ、ムダ、ムラを排除した全体最適を実現した点が評価された。

### ■ 2013年度ロジスティクス大賞 経営革新賞

受賞企業：大塚倉庫株式会社

受賞テーマ：「やめるべきこと」を決めることから始まった。 営業方針を転換することで実現する、収益率アップと顧客満足度の向上

受賞事由：物流の効率を顧みない外販拡大の結果、物流現場は作業負荷の増加に苦しみ利益は少ない、という現状を打破すべく、全社体制による経営改革に取り組み、「選択と集中」というアプローチのもと「やめるべきこと」を具体的に抽出した。その中で、ベースカーゴの夏と冬の出荷波動に着目し、積載効率が高まる重量物と軽量物の組み合わせが可能で、納品先が一致する企業に焦点を絞った。顧客別戦略シートに基づくID営業に徹することで、営業効率をすすめ、2年で外販売上50%を達成、利益率も大幅に向上させた点が評価された。

### ■ 2013年度ロジスティクス大賞 物流革新賞

受賞企業：株式会社丸和運輸機関

受賞テーマ：3PL企業によるドラッグストアのサプライチェーンにおける返品業務効率化

受賞事由：社会的、経済的に不利益を生みだしている返品物流に敢えて着目し、サプライチェーン全体で集約化、さらに小売間での共同化を推進することにより、それらの返品業務を請け負う返品センター運営という新たなビジネスモデルを創造し、構築した。小売、卸売業内に存在する様々なルールの一体化や、信頼関係の構築等、組織の壁を打ち破る努力がなされた結果、返品業務の効率化だけでなく、顧客の経営資源を販売業務に集中させることに貢献し、社会的経済的にも不利益の源泉となっている返品そのものを削減する効果を生み出した点が評価された。